

大分県農林水産業振興計画

おおいた農山漁村 活性化戦略2005

～元気で魅力ある農山漁村、
知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業をめざして～



大分県

元気で魅力ある農山漁村、 知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業を目指して



毎年7月9、10の両日、東京浅草・浅草寺^{せんそうじ}では、「ほおずき市」が立ちます。境内にはよしず張りに裸電球の露店が軒を連ね、約60万人もの人出を数える下町の夏の風物詩ですが、ここで売られる切り花のホオズキは、そのほとんどが佐伯市宇目などを主産地とする大分産です。大分のホオズキは実のそろい、大きさ、着色などあらゆる点で市場でも第一級品との評価を受けています。

また、平成17年6月の全国乾椎茸品評会では、大分県が7年連続で通算39回目の団体優勝の栄誉に輝き、個人の部でも最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。大分の乾しいたけは、全国のトップブランドとして不動の地位を確立しています。

このほかにも、白ねぎ、カボス、豊後牛、関あじ・関さば、城下かれいなど大分にはキラリと光る農林水産物が数多くあります。さらに、本県は豊かな天然自然をはじめとして、人材、観光資源、地場産業と地域資源の宝庫でもあります。これらの地域の宝を生かし、ホオズキや乾しいたけなどに続く全国に通用する産品を育て、これらを磨き、消費者の信頼にこたえていけば、「The・おおいた」ブランドが総合的な地域ブランドとして、他に負けない競争力を勝ち取るとともに、地域経済にも多くの波及効果をもたらすことができるものと考えます。

近年、農林水産物の輸入増加や農山漁村の過疎化・高齢化など農林水産業を取り巻く環境には、容易ならぬものがあります。加えて、食や食生活に対する意識の変化、あるいは流通形態の多様化など時代は急速に変化しており、これらを踏まえた適切な対応が求められています。

農林水産業は間違いなく試練の時を迎えています。しかし、私はこれをチャンスとしてとらえることが重要だと思っています。

これからの本県農林水産業は、消費者のニーズを敏感につかみ、安全・安心な農林水産物を大量かつ安定的に生産・流通できる体制を整えるとともに、販売力を高めていくことが重要です。今まさに「The・おおいた」ブランドの旗印のもと、時代の変化を追い風に変え、新たな展開を図る絶好の機会であるとも言えます。

このほど策定した「おおいた農山漁村活性化戦略」は、こうした認識のもと、本県農林水産業の現状と課題を明確に把握し、今後10年間を見通したうえで、基本となる政策指針をお示しするものです。計画は実行されてこそ意義があります。この戦略を生産者、関係団体、行政が一体となつて着実に実施することにより、元気で魅力ある農山漁村、知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業が実現できるよう願ってやみません。

本計画の策定に当たり、貴重なご意見・ご提言をいただいたアドバイザーをはじめ、多くの農林水産業従事者、関係者の皆さんに心から厚くお礼申し上げます。

平成17年12月

大分県知事 広瀬勝貞

目次

序章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨 2
- 2 計画の性格と期間 4

第1章 農林水産業を巡る新しい潮流

- 1 少子高齢社会の到来 8
- 2 グローバル化の進展 8
- 3 食や食生活に対する意識の高まり 9
- 4 流通を巡る環境の変化 10
- 5 温暖化問題等が迫る地球市民としての自覚 10
- 6 地域再生への新たな息吹 11

第2章 大分県農林水産業の基礎的条件

- 1 恵まれた自然環境 14
- 2 豊かな地域資源 14
- 3 多様な生産活動の展開 16
- 4 基礎的な生産構造 18

第3章 計画のねらい

- 1 「The・おおいた」ブランド 22
- 2 「The・おおいた」ブランド確立のために 23

第4章 農林水産業・農山漁村の展開方向

- I 消費者の心をつかむ商品づくり
- 1 安全・安心な商品づくり
 - (1) 安全・安心な商品づくり 32
- 2 多様な流通に対応した新たな展開
 - (1) 流通の多チャンネル化による市場競争力の強化 34
 - (2) 地産地消の推進 38
- 3 大量・周年の需要に応える重点品目づくり
 - (1) 米・麦・大豆 40
 - (2) 園芸 42
 - (3) 畜産 44
 - (4) 特用農林産（しいたけ・茶） 46
 - (5) 県産材 48
 - (6) 水産物 50

II 時代に対応する新たな農林水産業のしくみづくり

1 効率的で持続性のある生産体制の確立	
(1) 米政策改革に対応できる効率的な水田農業の展開	52
(2) 市場の変化に対応し森林環境を守る林業の展開	54
(3) 資源管理の強化と新たな地域・魚種での養殖業の展開	56
2 力強い担い手づくり	
(1) 中核的な担い手の育成	58
(2) 地域の組織的担い手の育成	60
(3) 新たな担い手の育成	62
3 支援システムの強化	
(1) 高度技術の開発と産地・農林水産業者への技術支援	64
(2) 関係団体の機能強化	66
(3) 経営安定対策の充実	68

III 地域資源の活用と産業間の連携によるニュービジネスの創造

1 付加価値を高める農林水産業の新しい展開	
(1) 新たな産業・地域連携による地域資源の活用	70
(2) 都市と農山漁村との共生・対流	72

IV 県民が多面的機能を共有できる農山漁村の整備

1 定住・生活環境の整備	
(1) 農山漁村の快適な生活環境づくり	76
(2) 災害に強い環境の整備	78
2 多面的機能の発揮	
(1) 農地、農業用水利施設の維持・保全	80
(2) 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	82
(3) 水域環境の保全・再生	86

終章 計画の推進にあたって

1 推進体制	90
2 進行管理	91

●資料	部門別の振興方向について	92
	数値でみる将来の農林水産業	104
	県民の農林水産業に関する意識調査結果	106
	計画の策定経過	112
	計画策定にあたり、助言・意見等をいただいた方々	114
	用語解説	119